

飛鳥 ASUKA KAWARABAN
かわら版

2022年
4月

春風号

第207号

発行所 株式会社 飛鳥 出版室
発行人 永野 正将
ADD: 〒780-0945 高知市本宮町65-6
TEL: 088-850-0588
MAIL: info@asuka-net.jp



歩かなきゃ！
見つかるものも見つからない



撮影・制作: 株式会社 飛鳥 (はやっし)

連載ページ

いろいろかいろ その三十三……………安藝真一 01
キルギスタンからコンニチハ⁸³……………氏原名美 02
新聞余話¹⁷……………大澤重人 03
おのころじま奮染記 25……………田島征彦 04

勝手に興味あるある隊…………… 05
ちーくんの釣り日記…………… 07
広告…………… 09
わが家の太郎⁵⁴……………永野雅子 11

うつつろい

その三十三

安藝眞一

気がつけば二月が終る。いつの間にも、もう六〇日も過ぎたのか。例年のように胸さわぐ正月の、襟を合わせた寒気のたたずまいが何よりも好きで、続く松の内、進んで七草の粥を炊くならかな日が進みがいとらしく、明くれば正月も十日、成人式の声聞こえろと、なにやら松の雅味が飛んで風情などどこ吹く風の行事の騒ぎのうち一月が暮れる。二月の声に節分の掛け声が重なり、やっとなと風情を取り戻した冬日がゆつくりと歩きはじめ。ここまでの四十日足らずの季節の歩みが好きで、身をまかせるように冬の気を吸いて夢みている日々をすごしている。

ところが世間は何よりもコロナの騒ぎで、それも二年にまたがる騒々しさで季節を押し倒しての狼狽を続けているが、いつの間に二月が去るといっては、ゆつくりと季節がまわりて、コロナの狼狽があまりもなく、平然と進んでいく方に何よりも安心する。

コロナは黴菌だと思っている。ウイルスという原語はこの国の出か知り得ていないが、要するに黴菌と思いつける。薬を飲むと昔から相場が決まっているのでワクチン注射も早々に受け、二回が済んだのに三回目も必要と云われておどろいたが、さてWEBで申込みという。何の事か判らずにいと、通院しているリハビリの療法士のスタッフが機転をきかせてくれて、思いの外早々に三回目の予約が決まって夫婦ともども接種を受けた。WEBとは何のことだろう。未だに判らないのでほうつて置く。他にソーシャルディスタンスという。訳せば社会的距離ということだが何とも身が入らない。そもそもこんな事で英語が必要なのか、要するにハクションの飛沫が

届かない距離を保つという事だろうが、ならばなるべく人と離れて、いいのではないか。改めて指示されなくても古来、人間は生まれより、相応のディスタンスを自ら作って生きる知恵を心得ている。夫婦共存のコツはディスタンスそのもので成り立っているのは誰もが知っていること。今さらの様にディスタンスといわれる筋合いはない。

それから「濃厚接触者」という言葉。初めは聞いた時に、あられない男女のしがみつきを連想して、何故にこんなボルノティックな語句を発明したのかと、作り主は文部省か厚生省かとさぐる気持ちの方が大きかった。

濃厚とは要するにキスのことであらうと思ひ、アメリカの感染者を見るに正にキスによる！と思ひ思えない。それにしても「ノー・キス」という運動が起こってもしないのを見るとキス以上の「濃厚」を持つ国民なのかと思つてしまふ。要するに「一つ屋根の下に暮す家族」が濃厚という言葉をかぶっていると思うと、幸福の最小単位として重要な「一つ屋根の下」もコロナにとっては悪という事に



了

安藝眞一
あき・しんいち／高知市



キルギスタンから コンニチハ

83

いつまで現役 続けますか？

氏原名美

祖父は六十六歳で亡くなった。父は七十一。気がつけば祖父の歳を過ぎ、二、三年もすれば父が鬼籍に入った歳になる。祖母でさえ八十に届かずして逝ったのだから、我が家の遺伝からして自分の番が来るのもそう先のことではない。パンデミックによる出入国制限の影響で日本に一時帰国したままキルギスに戻れなくなつて二年。担当もオンラインの大学院ゼミだけになったし、潮時かもしれない。死ぬまで現役という覚悟があるわけでもなし、体力が衰え気力も萎えてしまふ前に身軽になつておいた方が良さそうだ。

「終活」ということを頭に浮かべ始めていた二月、新潟の製菓工場で大きな火事があった。火災は夜十一時過ぎに発生し、深夜アルバイトの女性四人が亡くなったと

いう。痛ましいニュースに、別の意味で頭をガンとやられた思いだった。六十八から七十三歳、少しだけ先輩の彼女たちに叱られたような気がする。「もう逃げの算段を？」と。改めて見回せば、いたるところで女性も男性も私と同世代や少し上の世代が活躍する姿を目にする。隠居したくないのか、しなくてもいいのか、あるいは隠居どころではないのか、事情は様々だろうが、「精が出ますね」と声をかけたら「健康や体力に問題がない限り生涯現役でいるのが当然でしょう」と返ってきた。製菓工場で後期高齢者入り間際の女性が深夜勤務をしていたという、経済問題や企業の雇用体制が云々されがちだが、ご本人たちにとっては至って当たり前、受けた仕事を元気にこなしていたのだと思ふ。

終の住処になりそうな当地、北関東の小さな町は、ベッドタウン化が進んでいるとはいへ、中心を外れるとひたすら田んぼと野菜畑が広がる田園地帯だ。うちの隣の畑の主は七十代半ば、役所を辞めてから好きな農業に本腰を入れられるようになったという。広い畑をトラクターで耕すのも種を蒔くのも虫除けの作業もほとんど一人

でこなしているが、たまに手伝いの人たちが集まることがある。

冬のある朝、白菜を寒さ避けの紐で縛る作業が始まった。一つ一つが手作業で量も相当なものだから、さすがにアルバイトを頼んだようだ。どう見ても私より年長の女性が四、五人、慣れた手つきで白菜を縛っていく。当町のシルバリーセンターに登録している農業と園芸のスペシャリストたちだ。

ソ連時代の労働者は、定年退職して年金で悠々自適の暮らしをするのを楽しみにしていたとよく言われるが、独立後のキルギスでは定年という制度が機能しなくなった。経済的に支え合う血縁ネットワークの規模が小さいロシア系やウクライナ系の人々は年金受給資格に達しても退職しない。年金だけでは生活が成り立たないし、何より長年の経験と知識を活かせるからだ。

大学では、先週廊下であいさつを交わした老教授の遺影が翌朝玄関ホールに飾られていたりする。何かと世話になった人事部長が辞めたのは七十を過ぎてからだだし、国立美術館技術部門担当の副館長は八十歳で亡くなるまで働いた。大祖国戦争では、前線に赴いた男たちに代わって輸送トラックの運転をしていた

なるのだろうか。

様々な成り行きと言葉の羅列のうちにコロナの波は打ち返す。何の風情もない黴菌の混乱と拡大であるが、ふと気がつけば、いつしか冬も終わり、ゆつくりと春の日射しが高まる気配に、コロナなどを尻目にかけての季節のうつろいに気がつく。黴菌の事は忘れて、時のうつろいの確かさに身を置くのが人間らしいと思えて来る。

氏原 名美

うじはら・なみ

キルギス共和国 ビシケク国立大学
(旧称ビシケク人文大学) 教授

越知町出身 北海道大学卒。
「キルギスタン」はキルギス共和国の通称の一つ。

ビシケク国立大学 東洋国際関係学部 日本語日本文学講座



キルギス日本語
教師会で還暦祝い
してくれた時の
写真





高くつく 疑念の余地



「Choose Life Project」の問題は、新聞でも特集された

「ナンパは、1社(社会面の左面)で社会部さんのダイオキシンの特ダネ、対社(同右面)は……を中心につくりませう」

新聞社では毎晩、早版と遅版の交番会議があり、翌日朝刊の紙面内容を話し合います。交番と呼ばれる編集長が進行役を務め、当番デスクら十数人が出席します。出稿部からイチオシのメニューが紹介され、編集デスクだった私はその中から掲載記事を選び、どの面に置く予定か伝えました。その席に編集局ではない広告の担当者が必ず同席しました。なぜでしょうか。

たとえば、大手自動車メーカーのリコールや、有力企業の不祥事

などが掲載予定であれば、その日の紙面に当該企業の広告がデカデカと載るのは不適当だからです。場合によっては広告を差し替ええます。ただ、単価の高い広告が取れたからといって、不祥事記事を控えることは一度もありませんでした。新聞社の命は、広告ではなくて、記事だからです。

《読売新聞大阪本社と大阪府包括連携協定》

昨年末のニュースにはびつくりしました。府民のために適切に行政がなされているかどうか、チェックすべき報道機関が、こうした協定を結ぶことに元新聞人として拒絶反応みたくないものがあるからです。

乾かす時間が多い。天候に左右される。うまく天候に恵まれても、一枚に二、三日はかかる。はじめて本格的な絵本を創ったのは「祇園祭」だった。(一九七六年) ぼくが処女作の絵本にとりかかっていた頃、弟の征三は、既に持ち前の豪快な画風で、たくさんの絵本を出版して評価を得ていた。

おのころじま 奮奮

ふんせんき

田島征彦

25. 型染 ③ 型染絵本

型染で絵本を創っている。

多くの型染の制作工程を簡単に説明すると、下絵を渋紙に写して切っていく。布の上に型紙を置き、上から友禅ノリをヘラで刷り込んでいくと、切り取った型紙の空いたところにノリが着く。ノリの着いた布が乾くと染める。染料が乾くと、染料を定着させ、水洗いしてノリを落とす。布を乾かして、染料で彩色するか、又、ノリを置いて染める場合もある。最後に染料を定着させて完成だ。

こんな作業をくり返して絵本の絵を制作している。やたらと

荒っぽい絵は、もともとぼくの身上だった。勢のある絵で祇園祭の神輿や鉦の堂々とした姿を描きたいのはやまやまだが、人気絶頂の征三の絵と似てくるだろう。兄が弟の真似をして絵本を描き始めたとは、言われたくない。やっぱり型染を使って絵本創りに挑んだ。

当時、住んでいた京都の丹波は



湿気の多いところだ。特に冬は霧が深く晴天の日でも、太陽が出るのは昼をかなり廻ってからだ。悪

戦苦闘の絵本創りだった。しかし、苦労は報われた。絵本「祇園祭」は、国の内外で大

などに切り込み、YouTubeの登録者数は6万を超えていました。中立公正であればこそ、信頼は築かれます。

読売新聞大阪本社の柴田岳社長は記者会見で、大阪府との協定締結で自己規制が働くのではないかととの質問に「懸念をもたれる向きはわかるが、読売はそうそう、やわな会社ではない」と答えました。確かに不祥事などがあつた場合、記事を手加減するとは思いませんが、うがった見方をしがちな読者もいるはず。逆に、府の先取的な取り組みを報じて、素直に受け取れない読者もいるでしょう。部数が伸びたとしても、記事の信頼性に疑念を抱かせる余地を残したとしたら、それだけでも大きな損失ではないでしょうか。読者はそうそうバカではありません。



大澤 重人
おおざわ・しげと
渡来歴史館(大津市) 専門員、元毎日新聞高知支局長

近著に『咲くやむくげの花ー朝鮮少女の想い継いで(富山房インターナショナル刊

きな評価を受けた。2作目の「じごくのそうべえ」も、3作目の「火の笛」も、大きな賞を連続してもらった。

取材にも時間はかかったが、型染では直接に描くより3倍か4倍の時間がかかる。3年に一冊の割合でしか絵本は出版できなかった。

今、制作しているのは「なきむし せいとく」という、沖繩戦に巻きこまれた幼い少年の物語だ。凄惨な情景をこつこつと刻っている。

〈つづく〉



田島 征彦
たじま・ゆきひこ
染色家・絵本作家

大阪府堺市出身。少年時代を高知県で過ごす。京都市立美術大学染織図案科専攻科修了。一九七八年『じごくのそうべえ』で第一回絵本にっぽん賞。二〇一五年『ふしぎなともだち』で第二十回日本絵本大賞。沖繩の子どもたちを主人公にした「やんばるの少年」の次には沖繩戦を題材に、子どもたちに、戦争のことを、平和の大切さを伝える絵本を制作中。「なきむし せいとく」5月の沖繩返還の日出版の予定。

※「おのころじま」は淡路島の古代のよび名

勝手に興味あるある隊

Part 2



このコーナーは飛鳥の社員が、興味のある人や物、お店など、なんでも勝手に紹介するコーナーです。

パート2は営業部、長谷部がご紹介します！

自らの地域は、自らで守る!!
がんばれ!
消防団



皆さんこんにちは。
飛鳥の長谷部と申します。
私は営業の仕事しながら「高知市消防秦分団」に所属し消防団としての活動もしております。

ウィキペディアで調べてみました。
「消防団とは、日本においては、消防組織法にもとづいて各市町村に設置される消防機関である。消防団員は本業を別に持つ一般市民で構成されており、自治体から装備及び報酬が支給される、市町村における非常勤地方公務員である。
報酬に関しては、年額報酬や災害活動やイベント、訓練や災害現場出勤時に手当があり、退団時も(一定以上の期間所属していた場合)退職金がある。」

そう、地域の為に貢献したいというボランティア精神から入団しましたが、報酬や手当があるという事に関しては、ボランティアとは少し違いますね。

本業はみんな自営業、農業、会社員、公務員、議員などとバラバラです。

報酬や手当とは別に、自営業の方などは健康診断が無料で受けられたり、防災士や無線、船舶の免許の取得費用も負担なくとらせてもらえるというメリットもあります。(免許取得費用は最初の1回目のみで再受験の場合(自己負担です)。私も昨年、2級船舶の免許を取得させていただきました。

消防団は消火という印象が強いですが、救命という使命もあり、そのため消火訓練のみならず、救命の訓練にも励んでいます。毎月20日に定例会があり、情報の交換や訓練、イベント、設備点検等のスケジュール

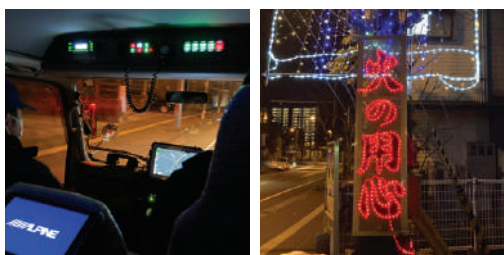
皆さんのご近所には消防団があると思います。が、どのような印象をお持ちでしょうか。私の入団前の印象は、地域一帯を担当している分団があり、普段はそれぞれが本業の仕事に励んでいて、火災のサイレンが鳴ると現場へ向かい消火活動のお手伝いをする、いわゆるボランティア活動をしている方々という印象でした。

年末になると火災が増えますので、年末警戒活動も行っています。

火災が発生した際は、消防署より「出火報等指令メール」が届き、各消防団員は、担当地域の消防器具置場に集合します。サイレンを鳴らして近隣住民の方への注意喚起を行い、耐火服に着替えてポンプ車に乗車し、火災現場へ急行します。

現場に着いてもすぐに放水はしません。現場の状況把握に努めます。火災の状況、そこに住まわれている方の家族状況、隣近所の方からの情報などを収集し、本職の消防士さん到着時に情報を伝えられるようにします。情報を報告したあとは、消防士の指示のもと消火活動を行います。火災が鎮火し、消火活動を終わると、現場から戻りみんなでホースを乾かしたり、片付け作業をします。

最近では電化が進み、冷暖房完備(エアコン)の普及で燃料として灯油などを使うかたが減ってきたことや、台所でもガスではなくIHのお宅が増えてきたので一昔前からいうと不注意による火災は激減してきました。しかし、今だに「放火」によるボヤや火災



年末になると火災が増えますので、年末警戒活動も行っています。

火災が発生した際は、消防署より「出火報等指令メール」が届き、各消防団員は、担当地域の消防器具置場に集合します。サイレンを鳴らして近隣住民の方への注意喚起を行い、耐火服に着替えてポンプ車に乗車し、火災現場へ急行します。

現場に着いてもすぐに放水はしません。現場の状況把握に努めます。火災の状況、そこに住まわれている方の家族状況、隣近所の方からの情報などを収集し、本職の消防士さん到着時に情報を伝えられるようにします。情報を報告したあとは、消防士の指示のもと消火活動を行います。火災が鎮火し、消火活動を終わると、現場から戻りみんなでホースを乾かしたり、片付け作業をします。

ルなどが確認されています。(幹部の方は別にいろいろ会があります。)

訓練は地域の方と一緒に避難訓練、川でゴムボートを使った救命(水難事故想定)訓練、放水訓練など実施しています。また訓練とは別に機材の点検や整備も定期的に行います。

そのほかにも、はしご車体験、出初め式、操法大会等の様々なイベントもあります。

特に2年に一度の操法大会に向けては訓練にも熱が入ります。大会に向けて昼間の本業で疲れた身体に鞭を打って、夜の練習は大変な時もあります。楽しくやっています。最近ではコロナの影響で中止が相次ぎ残念です。



出初め式写真



ちーくんの釣り日記

目指せ!!

100

魚種の旅



YouTube **あすか日記**

チャンネル登録お願いします!

ぜひ、ご視聴ください!

第4話 今日は何魚種釣れるかな?

第4話

桂自動車さんと極寒船釣。

第4話では、日頃から「高知県中小企業青年中央会」という団体活動でお世話になっており、プライベートでもよくちよく一緒に釣りに行く、大先輩の桂自動車の國澤社長を助っ人にお招きして船釣り釣行となりました。

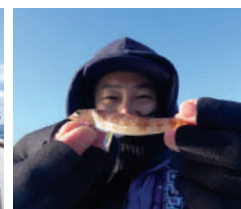
寒い中でしたが天気も良く、魚の活性もそこそこで、國澤さんが仕掛けを色々工夫していただいたおかげで、外道含めてそれなりの釣果になった・・・のかな?

この回から妙なテンションになっているカメラマンの「はやっし」にもぜひご注目ください!

今回の達成魚種

トータル **21** / 100 魚種

- オオモンハタ
- ヤマナリトラギス
- サバフグ
- イトヨリダイ



第5話

ひとりぼっちの船釣行

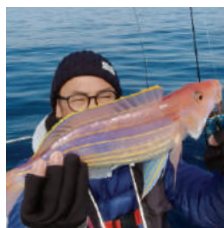
とある休日に、釣果アップを意気込んで単独ぼっち釣行に挑んでみたものの、上がってくるのは過去に釣れている魚種ばかりWWW。目指せ100魚種のまだまだ冒頭20匹ちよいの段階で早くも行き詰まっています(泣)



第5話 ひとりぼっちの船釣行

今回の達成魚種

なし



にお招きし、野本さんのホームグラウンドである高知県でも人気の観光スポット「柏島」で、魚種追加に向けた磯釣り初体験をさせていただきました。夜明け前から渡船で磯に上陸し、朝焼けの景色を眺めながらの釣行は最高のリフレッシュとなりました。肝心の釣果については、ビギナーズラックなのか、はたまた野本さんの指導の成果なのか、きつちりとグレをゲットできませんでした。がしかし、「5魚種は稼げるね!」と息巻いた割には惨



第6話

初挑戦の磯フカセ釣り

第6話では私の中高時代のサッカー部の先輩で、学生時代、社会人になってからも何かと縁があり大変お世話になっている株式会社野本精工舎の野本社長を助っ人



どうぞよろしく
お願いします!
はやっしの

釣りルポ
Fishing Reportage

どうもはやっしです!今回は、散歩がてら、お手軽にしかも簡単に「テラピア」というお魚を釣ってみました。食パンで簡単に釣れてしまうので楽しいです!あすかちゃんねるに動画をアップしておりますので、ぜひご覧ください!



今回の達成魚種

トータル **22** / 100 魚種

- ロ太グレ



第6話 フカセ磯釣り初挑戦!

コアラクラブ 新車が月々**11,000円**~

毎月フラットなお支払いでハッピーなカーライフを
税金 自賠責保険 車検 メンテナンス

ココ定額
ユーカリプラン

ユーカリポイント1 毎月フラットなお支払いで家計管理が楽々!
 ユーカリポイント2 メンテナンスパッケージでさらに安心・快適!
 ユーカリポイント3 月々のお支払いが軽減!
 ユーカリポイント4 リース期間満了時も選べて便利!
 ユーカリポイント5 24時間365日のロードサービスでもしもの時も安心!

メンテナンスパッケージ		
継続車検	法定点検	スケジュール点検(6ヵ月毎)
ブレーキオイル交換(車検時)	エンジンオイル交換(6ヵ月毎)	
冷却水交換(車検時)	ワイパーゴム交換(12ヵ月毎)	
エンジンオイルエレメント交換(12ヵ月毎)		

コアラクラブ
イメージキャラクター
鈴木奈々

KATSURA コアラクラブ高知西店 高知県高知市鴨部1丁目7-10
 有限会社 桂自動車 TEL(088)844-0019 FAX(088)844-0099

高精度製品を! 誠実と誠意でお客様に!

野本 NOMOTO SEIKOUSHA **野本精工舎**

誠実とお客様本位を徹底

私たちの特徴

- 屈指の機械設備
- 飽くなきチャレンジ精神
- どこにも負けないスピード
- 圧倒的な実績
- 技術力の高いスタッフ
- 全国に広がるネットワーク

株式会社 野本精工舎
 〒783-0055 高知県南国市双葉台8番地
TEL: 088-862-0332
 FAX: 088-862-2277

私たち、株式会社飛鳥はSDGsに(持続可能な)取り組んでいます。

実質再生可能なエネルギー100%の電力を確保し、環境への配慮を実施しています。

株式会社飛鳥

発行番号: 飛鳥工業100-000089
 (登録簿登録番号 D3C0001312001)
 〒780-0801 高知市東山1-1-10
 実施期間: 2022年3月1日 ~ 2024年2月29日

1926年生まれ
 昭和24年 高知県立女子専門学校生活科卒業
 同年 高知女子大学助手となり、家政学部教授として調理学を主に専攻
 平成4年 定年退職 名誉教授(平成23年より高知県立大学に校名変更)
 平成19年 高知県文化賞
 平成28年 文部科学大臣表彰 地域文化功労(芸術文化)受賞
 令和2年 高新高賞
 令和3年 男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰

私の「昭和、平成、令和」覚え書

まっことめでたい96歳

松崎 淳子

65歳で定年を迎えて30年。
 もうすぐ96歳の私は、昭和を全部見てきた老女として、来し方を書き残すことで記憶を確かめ、整理し直して自己満足をしていました。それを本にして残そうと仲間たちが会を立ち上げてくれたのです。

まっこと有難いこと。びっくりちや!

「土佐寿司の本」に続く
「まっことめでたい96歳」
 著者: 松崎 淳子
 B6版: 224頁 定価: 1,500円(税込)
 ※本のお問い合わせは飛鳥まで

6月発売予定!! お楽しみに!

クラウドファンディングのご協力をお願いしています。(期間: 2022.4.5~6.3まで)



わが家の太郎

54



攻防戦

永野雅子

わが家に小さな子犬がやってきて16年半、やんちゃで甘えることのない太郎は、すっかりおじいさんになった。いまだに私を主人と思わないらしく、どんなに世話をしても親しげなふりをしたことがない。

目も見えないのにいまだに脱出を試みる。先日仕事から帰ると台所の入り口で鳴いていた。見ると、フェンスに体当たりして隙間を作り、そこから無理矢理出てきたようで、台所まで通過した跡は、ゴミ箱がひっくり返り、化粧台に首を突っ込んだらしく中の化粧瓶は倒れているし、「もうーっ！」となる。

またある日は、フェンスを乗り越えて体半分出たもの、おむつが引つかかかって大騒ぎ。取りあえずフェンスを高くしてガムテープで止め、ブロックで挟んだ。高くなった分、私は足をあげて跨がねばならない。

カリカリは蹴っ散らかしてそこら中に散乱。いろいろ考えた挙げ句、餌箱におもりを入れて動かないようにし、水入れにもブロックを押さえにしたところ、なんと、ケースごと鼻で突いて移動してある。ケースの中の水入れはひっくり返って空っぽ。これを一日に数回。そのたびに、私は足を大きく上げてフェンスを跨いで水やり、オムツ替え、床の掃除をやらせていただく。一度脱出に成功すると、何度でも再挑戦をするので、そのたびに新たな防御法を考えることになる。

去年の暮には、もうこれで

お別れかと思うほど弱っていたのに、復活してからは元気なこと。この調子だと7月の17歳の誕生日は十分迎えられるだろう。

ご近所のワンちゃんたちは皆、逝ってしまった。皆さん、それぞれ飼い犬ロスになっているようで、太郎を気遣ってくださる。

私自身は、去年から大きな仕事を担当していて何かと忙しい。気持ちに余裕がなくなると、太郎の世話も義務でやっている感じで、そこを敏感な太郎は察知して、ますます「お前は俺の主人ではない」風の状態をとる。

先日、次男が飼い犬のノエルちゃんを連れてきた。抱くとうれしそうになんとも愛くるしい表情で見つめてくる。太郎からはこんな仕草をされたことがない。犬種の違いもあるだろうが、愛情のかけかたの問題かもねと思えてくる。

太郎はひよっとして、厳しく私の心を鍛えてくれているのではないだろうか。ね、太郎！



永野 雅子
ながの・まさこ
株式会社 飛鳥
常務取締役

夫、和宏と共に写真植字業を創業。有限会社四国写植、のちに株式会社飛鳥へ社名変更すると共に、会社の発展を陰で支える。
読者の要望に応じて「わが家の太郎」の執筆を続け、現在に至る。



1~59 +書き下ろし
「わが家の太郎」
A判変形 並製本 148頁
定価 1,320円(税込)

「飛鳥かわら版」は、あらゆる世代の自分史・個人誌作りを応援しています。

飛鳥かわら版 第207号【春風号】 飛鳥出版室

●発行所：株式会社 飛鳥 ●発行人 永野 正将
●住所：〒780-0945 高知市本宮町65-6 ●電話：088-850-0588
●メール：info@asuka-net.jp ●ホームページ：http://www.asuka-net.jp